

今週の一枚：世界文化遺産・マカオ・聖ポール天主堂跡

撮影日：2011年6月11日

出張先・中国珠海での打合が土日を挟むことになった。

そこで、短時間ながら久々にボーダーを越え、マカオに出てみた。

活動拠点のマニラから珠海への出張は、マカオ経由で入るのもルートの一つであり、これまで何回も利用してきた。

しかし、マカオ国際空港から中国(珠海)ボーダーまではリムジンバスやタクシーでの移動であり、マカオ市内は通過するのみであった。

今回は、そのマカオ市内を訪れた。それも旧市街であり、ポルトガ植民地時代の面影を強く残し、オリエントタルの中に、ヨーロッパのもつエキゾチックな雰囲気味わえる場所である。

その中でも、セナド広場から石畳の緩やかな坂道を上り、聖ポール天主堂跡へ、そして、さらにモンテ砦までの散策は、マカオのもつ魅力を凝縮しているといえる。

写真は、その聖ポール天主堂跡である。

300年前に建てられたものであるが、以来、幾多の大火に見舞われ、遂には、建物正面のみを残し焼け落ちてしまった。その後、この部分を復旧し、現在の姿で残されたものである。

この天主堂の建設には、キリスト教弾圧を逃れ、この地へ辿りついた日本人も携わったことが記録に残っている。

天主堂を見上げながら、彼らの無念と望郷の念に思いを馳せる。

マカオには植民地時代の遺構が数多く点在する。これにより、2005年には、域内の8つの広場と22の歴史的建造物が「マカオ歴史地区」という名前でユネスコの世界文化遺産に登録された。

カジノのだけではないマカオの魅力がここにある。

